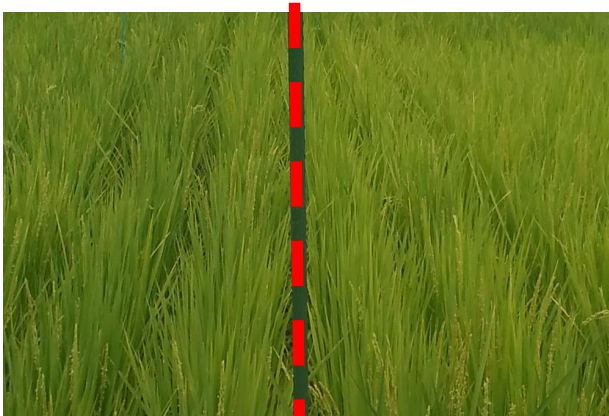


高温登熟障害の対策

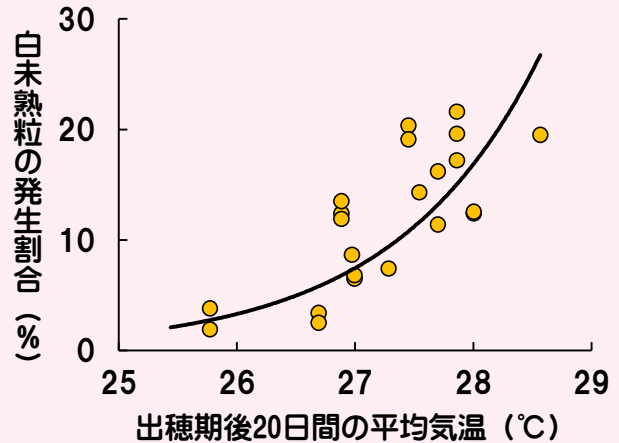
- 出穂期後20日間の平均気温が26℃を超えると、基部未熟粒や背白粒などの白未熟粒の発生（高温登熟障害）が多くなり、等級が低下します。
- 「ふさおとめ」は高温登熟障害が発生しにくい品種です。

対策

- 登熟期間中の葉色が濃いと障害が軽減できます。このため、幼穂形成期に追肥し、各品種、出穂期の葉色が目標値を下回らないようにしましょう。
- 出穂期後の高温が予想される時は、出穂期前7～5日（穂ばらみ期）に葉色を確認しましょう。葉色が淡く目標値に達しないと予想される場合は、軽減対策として10a当たり窒素量で1kgを上限（食味低下を防ぐため）に追肥を施用しましょう。



葉色が生育目標に達している水稲（左 SPAD:36.0）、達していない水稲（右 SPAD:30.8）（「コシヒカリ」、出穂期）



出穂期後20日間の平均気温が高いと白未熟粒が多い

（「コシヒカリ」、平成26～30年、4/10～6/5移植）



高温登熟障害が発生した玄米

○：基部未熟粒・背白粒

各品種の出穂期の葉色目標及び軽減対策における対策時期と施用窒素量

品種	葉色	対策時期	窒素量
ふさこがね	36.5	出穂期 7～5 日前	1kg/ 10a 以内
	(4.5)		
コシヒカリ	34.4	出穂期 7～5 日前	1kg/ 10a 以内
	(4.2)		
粒すけ	34.0		
	(4.2)		

注) 葉色はSPAD値、()内は葉色票による群落葉色値の目安